

第3回田辺市立小中学校あり方検討委員会（学校視察）

日 時 平成20年12月16日（火）

視察校 咲楽小、秋津川小、秋津川中、長野中、高雄中

参加者 委員 加治佐委員長、岡山副委員長、泉房委員、庄司委員、城委員、山本尚委員、松本委員、野上委員、竹中委員、古久保委員、柿平委員、大倉委員、寒川委員、森本委員、中山委員、泉敏委員、山本紳委員

研究員 山本研究員、伊藤研究員（兵庫教育大学大学院）

事務局 教育次長、学校教育課長、龍神教育事務所、中辺路教育事務所、大塔教育事務所、本宮教育事務所、林指導主事、南指導主事

A小学校

A 委員：昨日から学校視察をしているが、それぞれの地域で統合に向けての取組で苦労されていることが分かった。そして、学校と地域が連携を図り、取り組むことが大切であると感じた。本宮地域でも小学校の統合を行ってきたが、これほどきめ細やかな取組はできていなかった。校長先生の話で学校統合を進めることの参考にできたらと思う。今日は、よい勉強ができた。

B 委員：校長先生の話聞いて、龍神地区は教育熱心であることがよく分かった。今後、合併するに当たり、柳瀬や安井はどのようになるのか。

学校長：この上流に旧の中山路村があり、そこに児童数52名の中山路小学校がある。また、その上流に、東小・殿原小・宮代小の3つの小学校があり、来年の4月に統合して、上山路小学校になる予定である。この学校も咲楽小学校と同じぐらいの規模になる予定である。そして、一番上流に、龍神小学校があり、28、29名の児童数になっている。今後、龍神小学校が徐々に児童数が減少するが、龍神小学校と上山路小学校が統合するということは、距離的な問題もあり大変難しいと考える。また、中山路小学校も徐々に減少している。中山路小学校の先生には怒られるかもしれないが、減少してくると中山路小学校の児童の半分が、咲楽小学校に、半分が上山路小学校という形にしかならないのでは思う。また、先ほど話したが、旧龍神地区の統合検討委員会では、児童数の規模では2校が望ましいが、通学距離等を考えると、当面は小学校4校、中学校は1校という現状となっている。

C 委員：現状では通学時間が40分で収まっているが、校長先生の経験から子どもたちの通学時間の限界は何分ぐらいと考えているか。

学校長：40分である。小学校は40分が限界である。前任校の徒歩で通学する児童と、本校の40分かけてバス通学する児童の目の輝きを比べると全く違っていると感じる。本校でも、スクールバスの児童と徒歩通学の児童とでは目の輝きの違いを感じている。だから、極力、天気の良い日はグラウンドでランニングをさせて目を覚まさせている。そして、運動量を増やすことにも努力している。

B小学校・C中学校

C 委員：小学校でも自転車で通学している児童がいるのか。

学校長：西牟婁地方の学校にも自転車通学する児童がいると聞いている。本校では4名

の児童が自転車通学をしている。

C 委員：中学校での複式が今年度からはじまったが、中学校は教科担任制であり、小学校の複式と形態が違うと思うが。

学校長：中学校の複式授業は田辺市では初めてだが小学校のようにはいかないと思う。そこで、5教科については、複式ではなく単式に分けて行っている。ただ、音楽や体育等は人数が少なすぎると活動ができないため、このような実技教科については1・2年生合同の複式の形態をとっている。

C 委員：実技教科は人数が多い方がよい。主要5教科は学力的なこともあり単式がよい。総合の時間や体育等は、3学年まとめて行う方がよいのではないか。

学校長：体育大会の取組などは3学年合同で行っている。そのような事は柔軟に行っている。複式ということで子どもたちの実態を見ながら、教科等で柔軟に対応している。

D 委員：小規模校の共通した課題であると思うが、集団での耐える力が欠けるというデメリットの部分はないのか。

学校長：やはり集団が小さいのでどうしても社会性などは乏しくなると思う。だから、中学校では、他校との交流を進めている。1クラス30人ぐらい生徒がいる学校と交流を行っている。具体的には、午前中には交流学級の授業に参加し、午後からは自校の取組を発表し交流している。本年度は、龍神中学校と交流を進めたが、できるだけ校外に出かける機会を多く取り入れている。意識的に大きな集団に入れていくという取組を進めている。少人数ということでやりやすいことはやりやすいが、今後、高校に進学したり、社会に出たりすることを考えると、今のうちに計画的に指導していきたいと考えている。

D 委員：この地域の方々の統廃合の機運は怎么样了。

学校長：先日、本校の評議委員会での意見は、この地域にはこの地域の良さがあり、特色ある教育がある。だから、残したいという強い思いがある。ただし、現在の保護者がどのように考えているかは分からない。地域の方は残してほしいという考えは強いけれど、保護者の意見が小規模だから大きな学校に統合する方がよいというなら、その意見を大事にしなければいけないとも考える。4月に行った保護者会などでは、まだ統廃合は話題に上っていなかった。また、各担任に聞いたが、保護者からは小規模だからこのままではダメだという意見も上がっていると聞いていない。現状に満足しているのかもしれないし、はっきりしたことは分からない。

E 委員：小学校も中学校もそうだが、単式の学年と複式の学年が混ざっている。6年生は単式の学級だけど、5年生は複式の学級になっている。中学校でまた複式になる。そこで、保護者の方は複式なのだけど、単式の授業をしてほしいという声は出ないのか。

学校長：中学校は、今年度から複式学級ということで保護者には教育委員会から事前に説明もあったと思うが、最初はやっぱりどんな授業になるのだろうと不安になったと思う。そこで5教科については単式で、実技4教科については複式で行うことを総会等で説明している。特に保護者から不安の声は聞いていない。

学校長：小学校は以前より複式授業を行っているので、保護者の方は複式について違和

感はないと思う。むしろ、先生方にはあると思う。複式充実の非常勤講師が配置されるととてもありがたいという意見がある。

学校長：先ほどの補則になるが、評議員さんの意見の中には中学校には大変失礼ですが、小学校だけは残してほしいという強い思いはあると感じている。

C 委員：保護者は最初から複式しか知らないというのではなく、複式になったり、単式になったりしている。このように、義務教育9年間で複式になったり、単式になったりしている。このような変化ということについては、保護者はどう考えているか。

学校長：それは分かりにくい。来年度は複式になるのか。単式になるのか。などと保護者からはあまり聞かれたことがない。

C 委員：あまり敏感でないのかも知れませんね。

D 中学校

A 委員：伏菟野地区からは何人ぐらいの生徒が通学しているか。

学校長：一昨年から通学する生徒数が少し多くなってきているが、それまでは大変少なく、今年の卒業生は1名である。今は、長野小と伏菟野小の卒業生が半々ぐらいになっている。

C 委員：複式にはなっていないが、当校は小規模校であると思う。だから、将来的に複式が予想される。学力が高いということは少人数の利点が出ているのだと思う。このような状況のもと、少人数・小規模校に対する保護者の考えはどうか。また、少人数であるから、県立中学校に入学させる保護者が多いとかそういうことはないか。

学校長：昨年度の入学生で、県立中学校を受検したという生徒は聞いていない、今年の入学生も県立中学校を希望している生徒はいないと聞いている。

C 委員：小規模な学校に対する保護者の思いはどうか。

学校長：保護者は、小規模校では一人ひとりを大切にされた教育が行われているので、大きな学校へ行かせたいと思っていないのではと考える。学校としても、大きな集団で活動することは意義のあることだと思っている。しかし、小さい集団の中でも、一人ひとりに役割を持たせたり、人前で話をさせる活動は、人数が少ない分よけいに役が回ってくることになる。だから、結構、物怖じせずいろんな活動ができる子どもに育てていると思っている。

C 委員：生徒数が少ないが、施設が大変充実しているように感じる。このことについてはどうか。

学校長：この学校に勤務して2年目であるが、以前統合の話が持ち上がったときに、地域の方々が努力して、学校を存続させ、新しい校舎ができたと聞いている。

C 委員：これまで、いくつかの学校を見てきたが、これほどまでに立派な中学校はなかった。

E 中学校

C 委員：当校は5つの小学校から集まってくるが、その5つの小学校の中には2人しか入学しない小学校もあると聞いた。これほど多くの小学校から入学してくると

様々な課題があるのと思う。そこで、小中の連携、地域（公民館）との連携は、どうなっているか。小学校区が多くあるから連携が進みにくいのか。それとも、生徒数が大きいから連携が進みにくいのか。

学校長： 感覚的なもの言い方になるが、私としては、小学校が多い、公民館の数が多いというのが勝っていると感じている。

C 委員： 今までの視察は、どちらかという小規模校を見てきた。この学校に来たら非常に大きいと感じる。大きい学校と小さい学校では、先生方は教え方を変えるのか。また、生徒指導面などで苦勞することがあるのか。

学校長： 生徒数が多くなると、やはり、保護者の数も多くなり、大変厳しい指摘をする保護者もいる。ある意味で、教職員は打たれ強いということも必要になってくると思う。小規模校ではそれが不要でないということではないが、大規模校の方が頻度としては多くなると思う。家庭的、家族的な雰囲気を持って子どもたちに接する事が難しい。または、そのような暇がないということも言えるかも知れない。

C 委員： 3年生が139名で、あと2人いれば5クラスになるが、39名というのは先生方は多いと思っているのか。

学校長： ある意味、感覚的なところがあると思う。かつては45名学級で40名となった。そうすると最初は少なく感じたと思うが、今はそうではなくなった。また、3年生のように体格が大きくなると、4、5名増えると教室も大変狭く感じるようになる。しかし、これは職員の感覚によるものだと思う。正直言うと35名編制を基準にすると生徒への目配り、気配りが行き届くのでは、と感じている。